



Dominion KX II

クイック ステップ ガイド

KX II をご購入いただきありがとうございます。多彩な機能を備えた、エンタープライズクラスのセキュア デジタル KVM (キーボード/ビデオ/マウス) スイッチです。

このクイック セットアップ ガイドでは、KX II のインストール方法と設定方法について説明します。KX II の機能に関する詳細については、KX II または KX II のユーザ ガイドからアクセスできるオンライン ヘルプを参照してください。ユーザ ガイドは、Raritan の Web サイトの「Firmware and Documentation」セクション (<http://www.raritan.com/support/firmware-and-documentation/>) からダウンロードできます。

ステップ 1: KVM ターゲット サーバを設定する

Windows®、Linux®、X-Windows、Solaris™、KDE などのグラフィカル ユーザ インタフェースを実行する KVM ターゲット サーバは、帯域幅効率とビデオ パフォーマンスを最適化するための設定が必要です。デスクトップの背景は完全な無地にする必要はありませんが、写真や複雑な配色の背景を使用すると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

サーバのビデオ解像度とリフレッシュ レートが KX II でサポートされていることと、信号がノンインタレースであることを確認します。KX II でサポートされている画面解像度は次のとおりです。

解像度	
640x350、70Hz	1024x768、75Hz
640x350、85Hz	1024x768、90Hz
640x400、56Hz	1024x768、100Hz
640x400、84Hz	1152x864、60Hz
640x400、85Hz	1152x864、70Hz
640x480、60Hz	1152x864、75Hz
640x480、66.6Hz	1152x864、85Hz
640x480、72Hz	1152x870、75.1Hz
640x480、75Hz	1152x900、66Hz
640x480、85Hz	1152x900、76Hz
720x400、70Hz	1280x720、60Hz
720x400、84Hz	1280x960、60Hz

解像度	
720x400、85Hz	1280x960、85Hz
800x600、56Hz	1280x1024、60Hz
800x600、60Hz	1280x1024、75Hz
800x600、70Hz	1280x1024、85Hz
800x600、72Hz	1360x768、60Hz
800x600、75Hz	1366x768、60Hz
800x600、85Hz	1368x768、60Hz
800x600、90Hz	1400x1050、60Hz
800x600、100Hz	1440x900、60Hz
832x624、75.1Hz	1600 x 1200、60Hz
1024x768、60Hz	1680x1050、60Hz

マウス モード

KX II は、次のマウス モードで動作します。

- ずれないマウス モード (Absolute Mouse Mode™) (D2CIM-VUSB のみ)
- インテリジェント マウス モード (アニメーションカーソルを使用しないでください)
- 標準マウス モード

ずれないマウス (Absolute Mouse Synchronization)

の場合は、マウス

パラメータを変更する必要はありません。ただし、このモードを使用するには、D2CIM-VUSB または D2CIM-DVUSB

が必要です。標準マウスモードとインテリジェントマウスモードの場合、マウスパラメータを特定の値に設定する必要があります(後述)。マウス設定は、ターゲットのオペレーティングシステムによって異なります。詳細については、使用するオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

Windows 2000 の設定

▶ Windows 2000® を実行している KVM ターゲットサーバを設定するには

1. マウスの設定を行います。
 - a. [スタート]、[コントロールパネル]、[マウス]の順に選択します。
 - b. [Motion] (動作) タブをクリックします。
 - アクセラレーションを [なし] に設定します。
 - ポインタの速度設定をちょうど中間の速度に設定します。
 - [OK] (OK) をクリックします。
2. アニメーション効果を無効にします。
 - a. [コントロールパネル] の [画面] オプションを選択します。
 - b. [効果] タブをクリックします。
 - [次のアニメーション効果をメニューとヒントに使用する] オプションをオフにします。
3. [OK] をクリックして、[コントロールパネル] を閉じます。

注: Windows XP、Windows 2000、または Windows 2008 を実行している KVM ターゲットサーバの場合、KX II を介したりモート接続用に、専用のユーザ名を作成することが可能です。これにより、ターゲットサーバのマウスポインタの速度や加速を KX II 接続用に遅く設定できます。

Windows XP、2000、および 2008 のログインページでは、マウスのパラメータが、最適な KX II パフォーマンス用に提案されたパラメータとは異なる、プリセットされたパラメータに戻ります。この結果、これらの画面ではマウスの同期は最適ではありません。

警告! Windows KVM ターゲットサーバのレジストリを調整してもかまわない場合のみ、次の操作を行ってください。Windows レジストリエディタを使って次の設定を変更することにより、ログインページで KX II のマウスの同期を改善することができます。HKey_USERS\DEFAULT\Control Panel\Mouse:> MouseSpeed = 0、MouseThreshold 1=0、MouseThreshold 2=0。

Windows XP、Windows 2003、および Windows 2008 の設定

▶ Microsoft Windows 7®、Windows XP®、Windows 2003®、および Windows 2008® を実行している KVM ターゲットサーバを設定するには、以下の手順に従います。

1. マウスの設定を行います。
 - a. [スタート]、[コントロールパネル]、[マウス]の順に選択します。
 - b. [ポインタ オプション] タブをクリックします。
 - c. [速度] グループで、以下の操作を行います。
 - ポインタの速度設定をちょうど中間の速度に設定します。
 - [ポインタの精度を高める] チェックボックスをオフにします。
 - [動作] のオプションを無効にします。
 - [OK] (OK) をクリックします。
2. アニメーション効果を無効にします。
 - a. [コントロールパネル] の [画面] オプションを選択します。
 - b. [デザイン] タブをクリックします。
 - [効果] ボタンをクリックします。
 - [次のアニメーション効果をメニューとヒントに使用する] オプションをオフにします。
3. [OK] をクリックして、[コントロールパネル] を閉じます。

注: Windows XP、Windows 2000、または Windows 2008 を実行している KVM ターゲットサーバの場合、KX II を介したりモート接続用に、専用のユーザ名を作成することが可能です。これにより、ターゲットサーバのマウスポインタの速度や加速を KX II 接続用に遅く設定できます。

Windows XP、2000、および 2008 のログインページでは、マウスのパラメータが、最適な KX II パフォーマンス用に提案されたパラメータとは異なる、プリセットされたパラメータに戻ります。この結果、これらの画面ではマウスの同期は最適ではありません。

警告! Windows KVM ターゲットサーバのレジストリを調整してもかまわない場合のみ、次の操作を行ってください。Windows レジストリエディタを使って次の設定を変更することにより、ログインページで KX II のマウスの同期を改善することができます。HKey_USERS\DEFAULT\Control Panel\Mouse:> MouseSpeed = 0、MouseThreshold 1=0、MouseThreshold 2=0。

Windows Vista の設定

▶ **Windows Vista®** を実行している KVM ターゲットサーバを設定するには、以下の手順に従います。

- マウスの設定を行います。
 - [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]、[マウス] の順に選択します。
 - [ポインタ オプション] タブをクリックします。
 - [速度] グループで、以下の操作を行います。
 - ポインタの速度設定をちょうど中間の速度に設定します。
 - [ポインタの精度を高める] チェックボックスをオフにします。
 - [OK] (OK) をクリックします。
- アニメーション効果とフェード効果を無効にします。
 - [コントロール パネル] の [システム] オプションを選択します。
 - [パフォーマンス情報] を選択し、[ツール]、[詳細ツール]、[調整] の順に選択し、Windows の外観とパフォーマンスを調整します。
 - [詳細設定] タブをクリックします。
 - [パフォーマンス] グループの [設定] ボタンをクリックして、[パフォーマンス オプション] ダイアログ ボックスを開きます。
 - [カスタム] オプションで、以下のチェックボックスをオフにします。
 - アニメーション関連のオプション:
 - [Windows 内のアニメーション コントロールと要素]
 - [ウィンドウを最大化や最小化するときにアニメーションで表示する]
 - フェード関連のオプション:
 - [メニューをフェードまたはスライドして表示する]
 - [ヒントをフェードまたはスライドで表示する]
 - [メニュー項目をクリック後にフェードアウトする]
- [OK] をクリックして、[コントロール パネル] を閉じます。

Linux の設定

▶ **Linux®** を実行している KVM ターゲットサーバを設定するには、以下の手順に従います。

- (標準マウス モードのみ) マウスの加速値を正確に 1 に設定し、しきい値も正確に 1 に設定します。コマンド「xset mouse 1 1」を入力します。このコマンドは、ログイン時の実行用に設定する必要があります。

Sun Solaris の設定

▶ **Sun® Solaris™** を実行している KVM ターゲットサーバを設定するには、以下の手順に従います。

- マウスの加速値を正確に 1 に設定し、しきい値も正確に 1 に設定します。
- また、サポートされる解像度にビデオカードが設定されており、出力が VGA (コンポジット Sync 以外) であることを確認します。

Apple Macintosh の設定

▶ **Sun® Solaris™** を実行している KVM ターゲットサーバを設定するには、以下の手順に従います。

Apple Macintosh® オペレーティングシステムを実行している KVM ターゲットサーバに対しては、D2CIM-VUSB およびずれないマウス (Absolute Mouse Synchronization) を使用する方法が推奨されます。

注: [USB Profile] (USB プロファイル) メニューまたは [Port Configuration] (ポート設定) ページから USB プロファイル [Mac OS-X, version 10.4.9 and later] (MAC OS X (10.4.9 以降)) を選択する必要があります。

IBM AIX の設定

▶ **IBM AIX®** を実行している KVM ターゲットサーバを設定するには、以下の手順に従います。

- [Style Manager] を開き、[マウスの設定] をクリックします。[マウスの加速] を 1.0 に設定し、[しきい値] を 3.0 に設定します。

ステップ 2: ネットワーク ファイアウォールの設定

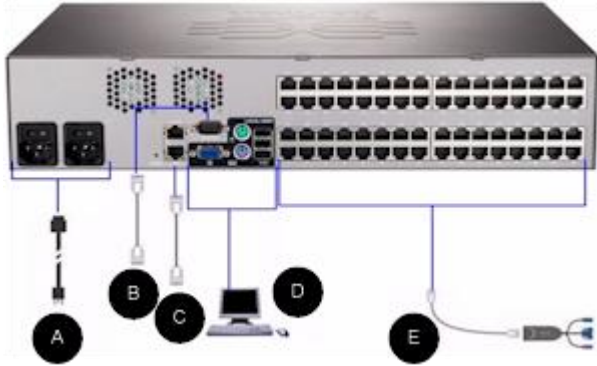
KX II へのリモート

アクセスを有効にするには、ネットワークおよびファイアウォールにおいて、TCP ポート 5000 での通信が許可されている必要があります。なお、別の TCP ポートを使用するように KX II を設定し、その TCP ポートでの通信を許可することもできます。

Web ブラウザで KX II

にアクセスできるようにするには、ファイアウォールで TCP ポート 443 (標準 HTTPS) へのアクセスも許可する必要があります。TCP ポート 80 (標準 HTTP) にアクセスすると、HTTP 要求が自動的に HTTPS にリダイレクトされます。

ステップ 3: 装置の接続



A. AC 電源:

▶ 電源を接続するには、以下の手順に従います。

1. 付属の AC 電源コードを KX II と AC 電源コンセントに接続します。
2. 二重化電源フェイルオーバー保護を実装するには、付属の 2 つ目の AC 電源コードを、1 つ目の電源コードとは別の電源コンセントに接続します。

注: システムは自動的に 2 つの電源を検出するように設定されているので、電源コードを 1 本しか接続していない場合、KX II のフロントパネルの電源 LED が赤色で点灯します。使用されていない電源の自動検出をオフにする方法については、KX II ヘルプの「電源設定」を参照してください。

B. モデム ポート (オプション)

モデムの接続については、KX II のユーザガイドを参照してください。

C. ネットワーク ポート

KX II は、フェイルオーバー用に 2 つの Ethernet ポートを提供しています (負荷分散用ではない)。デフォルトでは LAN1 のみがアクティブで、自動フェイルオーバーは無効になっています。自動フェイルオーバーが有効な場合、KX II の内部ネットワーク インタフェース、またはその接続先のネットワークが使用できなくなると、同じ IP アドレスで LAN2 が利用可能になります。

注: フェイルオーバー ポートは実際にフェイルオーバーが発生するまで有効にならないので、フェイルオーバー ポートを監視しないか、フェイルオーバーが発生した後にのみ監視するようにすることをお勧めします。

▶ ネットワークを接続するには、以下の手順に従います。

1. (付属の) 標準 Ethernet
ケーブルを、「LAN1」のラベルの付いたネットワークポートから、Ethernet スイッチ、ハブ、またはルータに接続します。
2. オプションの KX II Ethernet
フェイルオーバー機能を使用するには、以下の手順に従います。
 - 標準 Ethernet
ケーブルを、「LAN2」のラベルの付いたネットワークポートから、Ethernet スイッチ、ハブ、またはルータに接続します。
 - [Network Configuration] (ネットワーク設定) ページで [Enable Automatic Failover] (自動フェイルオーバーを有効にする) をオンにします。

注: 1

つをフェイルオーバー用のポートとして使用する場合のみ、ネットワークポートを 2 つ使用してください。

D. ローカル アクセス ポート (ローカル PC)

KX II のローカル アクセス

ポートを使用することによって、ラックからターゲットサーバに簡単にアクセスできます。ローカル アクセスポートはインストールおよび設定に必要ですが、それ以降の使用についてはオプションです。ローカル アクセスポートでは、管理およびターゲットサーバへのアクセスに KX II ローカル コンソールのグラフィカル ユーザ インタフェースも使用できます。

KX2-832 および KX2-864 には、ラックからターゲットサーバにアクセスできるように、デバイスの背面に「EXT LOCAL」というラベルの付いた拡張ローカルポートも用意されています。拡張ローカルポートは、最初のインストールおよび設定には必要ありません。ローカル コンソールおよびリモート コンソールから設定します。

▶ ローカル ポートに接続するには、以下の手順に従います。

- マルチシンク VGA
モニター、マウス、キーボードを、対応するローカル ユーザポートに接続します。キーボードとマウスは、PS/2 または USB 互換のものを使用します (DKX2-832 および DKX2-864 では USB のみ)。ローカル ユーザポートおよび拡張ローカルポートの物理的な接続位置は、KX II の背面パネルです。

接続	説明
モニター	標準マルチシンク VGA モニタを HD15

	(メス) ビデオ ポートに接続します。
キーボード	標準 PS/2 キーボードを Mini-DIN6 (メス) キーボード ポートに接続するか、標準 USB キーボードを USB タイプ A (メス) ポートのいずれかに接続します。
マウス	標準 PS/2 マウスを Mini-DIN6 (メス) マウス ポートに接続するか、標準 USB マウスを USB タイプ A (メス) ポートのいずれかに接続します。

E. ターゲット サーバ ポート

KX II は、標準 UTP ケーブル (Cat5/5e/6) を使用して各ターゲット サーバに接続します。

▶ ターゲット サーバを KX II に接続するには、以下の手順に従います。

- 適切なコンピュータ インタフェース モジュール (CIM) を使用します。
- お使いの CIM の HD15 ビデオ コネクタをターゲット サーバのビデオ ポートに接続します。ターゲット サーバのビデオが、サポートされている解像度と垂直走査周波数に設定されていることを確認します。Sun サーバの場合は、ターゲット サーバのビデオ カードがコンポジット Sync ではなく標準 VGA (H-and-V Sync) を出力するように設定されていることも確認してください。
- お使いの CIM のキーボード/マウス コネクタを、ターゲット サーバの該当するポートに接続します。標準ストレート UTP (Cat5/5e/6) ケーブルを使って、CIM を KX II デバイスの背面の使用可能なサーバ ポートに接続します。

注: DCIM-USB G2

の背面には小さいスライド型スイッチがあります。PC ベースの USB ターゲット サーバの場合はスイッチを P にします。Sun の USB ターゲット サーバの場合はスイッチを S にします。

変更後のスイッチ位置が有効になるのは、CIM に給電し直した後です。CIM に給電し直すには、ターゲット サーバから USB コネクタをいったん取り外し、数秒経ってから再度取り付けます。

ステップ 4: KX II の設定

デフォルト パスワードの変更

KX II

の出荷時には、デフォルトのパスワードが設定されています。KX II を初めて起動したときは、このパスワードを変更する必要があります。

▶ デフォルトのパスワードを変更するには、以下の手順に従います。

- KX II 本体の背面にある電源スイッチをオンにします。KX II 本体が起動されるのを待ちます (起動プロセスが完了すると、ピープ音が鳴ります)。
- 本体が起動されると、KX II ローカル ポートに接続されたモニタに KX II ローカル コンソールが表示されます。デフォルトのユーザ名 (admin) とパスワード (raritan) を入力し、[Login] (ログイン) をクリックします。[Change Password] (パスワードの変更) 画面が表示されます。
- [Old Password] (旧パスワード) フィールドに古いパスワード (raritan) を入力します。
- [New Password] (新しいパスワード) フィールドに新しいパスワードを入力し、[Confirm New Password] (新しいパスワードの確認) フィールドに新しいパスワードを再入力します。パスワードには、最大 64 文字の英数字と特殊文字を使用できます。
- [Apply] (適用) をクリックします。
- パスワードが正常に変更された旨のメッセージが表示されます。[OK] (OK) をクリックします。[Port Access] (ポート アクセス) ページが表示されます。

IP アドレスの割り当て

ここでは、[Network Settings] (ネットワーク設定) ページで IP アドレスを割り当てる方法について説明します。

- [Device Settings] (デバイス設定) の [Network] (ネットワーク) を選択します。[ネットワーク設定] (Network Settings) ページが開きます。
- KX II デバイスにわかりやすいデバイス名を指定します。最大 32 文字の英数字と有効な特殊文字を組み合わせで使用できます。スペースは使用できません。
- [IPv4] セクションで、適切な IPv4 固有のネットワーク設定を入力するか選択します。
 - 必要な場合は、[IP Address] (IP アドレス) を入力します。デフォルトの IP アドレスは「192.168.0.192」です。

- b. [Subnet Mask] (サブネット マスク) を入力します。デフォルトのサブネットマスクは「255.255.255.0」です。
 - c. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) ドロップダウンリストで [None] (設定しない) を選択する場合は、[Default Gateway] (デフォルトゲートウェイ) を入力します。
 - d. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) ドロップダウンリストで [DHCP] を選択する場合は、[Preferred DHCP Host Name] (優先 DHCP ホスト名) を入力します。
 - e. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) を選択します。次のオプションを使用できます。
 - [None] (設定しない) (静的 IP) - このオプションを選択した場合は、ネットワークの IP アドレスを手動で指定する必要があります。KX II はインフラストラクチャ デバイスであり、IP アドレスは変更されないため、このオプションを推奨します。
 - [DHCP] - DHCP サーバから一意の IP アドレスとその他のパラメータを取得するために、ネットワークに接続しているコンピュータ (クライアント) によって Dynamic Host Configuration Protocol が使用されます。このオプションを選択した場合、ネットワークパラメータは DHCP サーバによって割り当てられます。DHCP を使用する場合は、[Preferred host name] (優先ホスト名) を入力します (DHCP のみ)。最大 63 文字まで使用できます。
4. IPv6 を使用する場合は、[IPv6] セクションで、適切な IPv6 固有のネットワーク設定を入力するか、選択します。
- a. [IPv6] チェックボックスをオンにしてセクション内のフィールドを有効にし、デバイスの IPv6 を有効にします。
 - b. [Global/Unique IP Address] (グローバル/一意の IP アドレス) を入力します。これは、KX II に割り当てられる IP アドレスです。
 - c. [Prefix Length] (固定長) を入力します。これは、IPv6 アドレスで使用されるビット数です。
 - d. [Gateway IP Address] (ゲートウェイ IP アドレス) を入力します。
 - e. [Link-Local IP Address] (リンク - ローカル IP アドレス)。このアドレスは、自動的にデバイスに割り当てられます。これは、近隣探索で、またはルータが存在しない場合に使用されます。**[Read-Only] (読み取り専用)**
 - f. [Zone ID]。これは、アドレスが関連付けられているデバイスを識別します。**[Read-Only] (読み取り専用)**
 - g. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) を選択します。次のオプションを使用できます。
 - [None] (設定しない) - 自動 IP 設定を使用せず、IP アドレスを自分で設定する場合は、このオプションを選択します (静的 IP)。推奨されるデフォルトのオプションです。
[IP auto configuration] (IP 自動設定) で [None] (設定しない) を選択すると、[Network Basic Settings] (ネットワーク基本設定) フィールド ([Global/Unique IP Address] (グローバル/一意の IP アドレス)、[Prefix Length] (固定長)、[Gateway IP Address] (ゲートウェイ IP アドレス)) が有効になり、IP アドレスを手動で設定できるようになります。
 - [Router Discovery] (ルータ検出) - このオプションを使用して、直接接続されるサブネットにのみ適用される [Link Local] (リンク ローカル) を超える [Global] (グローバル) または [Unique Local] (一意ローカル) を意味する IPv6 アドレスを自動的に割り当てます。
5. [DHCP] が選択され、[Obtain DNS Server Address] (DNS サーバアドレスを取得) が有効になっている場合は、[Obtain DNS Server Address Automatically] (DNS サーバアドレスを自動的に取得) を選択します。DNS サーバアドレスが自動的に取得されると、DHCP サーバが提供する DNS 情報が使用されます。
6. [Use the Following DNS Server Addresses] (次の DNS サーバアドレスを使用) を選択する場合は、[DHCP] が選択されているかどうかにかかわらず、このセクションに入力されたアドレスが、DNS サーバの接続に使用されます。
- [Use the Following DNS Server Addresses] (次の DNS サーバアドレスを使用) オプションを選択する場合は、次の情報を入力します。これらのアドレスは、停電によりプライマリ DNS サーバ接続が切断された場合に使用されるプライマリおよびセカンダリ DNS アドレスです。
- a. [Primary DNS Server IP Address] (プライマリ DNS サーバ IP アドレス)
 - b. [Secondary DNS Server IP Address] (セカンダリ DNS サーバ IP アドレス)
7. 完了したら [OK] をクリックします。これで、KX II デバイスはネットワークにアクセスできます。

ターゲット サーバの命名

- ▶ **ターゲットサーバに名前を付けるには、以下の手順に従います。**

1. まだすべてのターゲットサーバを接続していない場合は、接続します。

2. KX II ローカル コンソールで、[Device Settings] (デバイス設定) の [Port Configuration] (ポート設定) を選択します。[Port Configuration] (ポート設定) ページが開きます。

電源の自動検出の指定

KX II

には二重化電源が搭載されており、これらの電源の状態を検出し、通知できます。正しく設定することで、電源に障害が発生した場合に KX II によって適切な通知が送信されます。

[Power Supply Setup] (電源設定) ページは、2 つの電源が使用されている場合に両方の電源を自動的に検出するように設定されています。お使いの設定で電源を 1 つだけ使用している場合は、[Power Supply Setup] (電源設定) ページから自動検出を無効にできます。

▶ 使用中の電源の自動検出を有効にするには、以下の手順に従います。

1. [Device Settings] (デバイス設定) の [Power Supply Setup] (電源設定) を選択します。[Power Supply Setup] (電源設定) ページが開きます。
2. 電源入力を 1 番目の電源 (デバイス背面の左端の電源) に接続している場合は、[PowerIn1 Auto Detect] (PowerIn1 自動検出) チェックボックスをオンにします。
3. 電源入力を 2 番目の電源 (デバイス背面の右端の電源) に接続している場合は、[PowerIn2 Auto Detect] (PowerIn2 自動検出) チェックボックスをオンにします。
4. [OK] (OK) をクリックします。

注: これらのチェック

ボックスのいずれかをオンにしたにもかかわらず、電源入力を実際には接続されていない場合は、デバイス前面の電源 LED が赤色で点灯します。

ユーザグループとユーザの作成

▶ 新規ユーザグループを追加するには、以下の手順に従います。

1. [User Management] (ユーザ管理) の [Add New User Group] (ユーザグループを新規に追加) を選択するかまたは [User Group List] (ユーザグループ一覧) ページの [Add] (追加) ボタンをクリックして、[Group] (グループ) ページを開きます。
[Group] (グループ) ページには、[Group] (グループ)、[Permissions] (権限)、[Port Permissions] (ポート使用権限)、[IP ACL] の 4 つのカテゴリがあります。

2. [Group Name] (グループ名) フィールドに、新しいユーザグループのわかりやすい名前 (最大 64 文字) を入力します。
3. グループの権限を設定します。このグループに属するすべてのユーザに対して割り当てる許可の左にあるチェックボックスをオンにします。
4. [Port Permissions] (ポート使用権限) を設定します。このグループに属するユーザがアクセスできるサーバポート (およびアクセスのタイプ) を指定します。
5. IP ACL を設定します。この機能は、IP アドレスを指定することで、KX II デバイスへのアクセスを制限します。この機能は、特定のグループに属するユーザにのみ適用されます。このデバイスに対するすべてのアクセス試行に適用され、優先される、IP アクセス制御リスト機能とは異なります。(オプション)
6. [OK] (OK) をクリックします。

▶ 新規ユーザを追加するには、以下の手順に従います。

1. [User Management] (ユーザ管理) の [Add New User] (新規ユーザの追加) を選択するか、[User List] (ユーザリスト) ページの [Add] (追加) ボタンをクリックして、[User] (ユーザ) ページを開きます。
2. [Username] (ユーザ名) フィールドに、一意のユーザ名を入力します (最大 16 文字)。
3. [Full Name] (フルネーム) フィールドに、ユーザのフルネームを入力します (最大 64 文字)。
4. [Password] (パスワード) フィールドにパスワードを入力し、[Confirm Password] (パスワードの確認) フィールドにパスワードを再入力します (最大 64 文字)。
5. [User Group] (ユーザグループ) ドロップダウンリストからグループを選択します。このリストには、システムによって定義されているデフォルトグループに加えて、ユーザによって作成されたグループを含むすべてのグループが表示されます。デフォルトグループは、デフォルト設定である [Unknown] (不明)、[Admin] (管理者)、[Individual Group] (個別グループ) です。
6. 新規ユーザを有効にするには、[Active] (アクティブ) チェックボックスをオンにします。デフォルトはアクティブ状態 (有効) です。
7. [OK] (OK) をクリックします。

ステップ 5: KX II リモート コンソールを起動する

▶ KX II リモート

コンソールを起動するには、以下の手順に従います。

1. KX II にネットワークを介して接続でき、Java Runtime Environment (JRE) がインストールされている、任意のコンピュータにログインします (JRE は **Java の Web サイト** <http://java.sun.com/> から入手できます)。
2. サポートされている Web ブラウザ (Internet Explorer (IE) や Firefox など) を起動します。
3. Web ブラウザのアドレス ボックスに「**http://IP-ADDRESS**」と入力します。IP-ADDRESS は、KX II に割り当てられた IP アドレスです。また、HTTPS を使用することや、管理者によって割り当てられた KX II の DNS 名を使用することもできます (DNS サーバが設定されている場合)。IP アドレスをそのまま入力してもかまいません (KX II では常に IP アドレスが HTTP から HTTPS にリダイレクトされます)。**[Login]** (ログイン) ページが開きます。
4. ユーザ名とパスワードを入力します。**[Login]** (ログイン) をクリックします。

リモートからのターゲット サーバのアクセスと制御

KX II の **[Port Access]** (ポート アクセス)

ページには、すべての KX II ポート、接続中のターゲット サーバ、ターゲット サーバの状態およびその可用性が表示されます。

ターゲット サーバにアクセスする

▶ ターゲット サーバにアクセスするには

1. アクセスしたいターゲット サーバのポート名をクリックします。ポート アクション メニューが開きます。
2. ポート アクション メニューの **[Connect]** (接続) をクリックします。そのターゲット サーバの画面に切り替わります。

ターゲット サーバの切り替え

▶ KVM ターゲット

サーバを切り替えるには、以下の手順に従います。

1. ターゲット サーバを使用しているときに、KX II の **[Port Access]** (ポート アクセス) ページを開きます。
2. アクセスするターゲットの **[Port Name]** (ポート名) をクリックします。**[Port Action]** (ポート アクション) メニューが表示されます。
3. **[Port Action]** (ポート アクション) メニューの **[Switch From]** (切り替え元) を選択します。選択した新しいターゲット サーバが

[Virtual KVM Client] (仮想 KVM クライアント) ウィンドウに表示されます。

ターゲット サーバの切断

▶ ターゲット

サーバを切断するには、以下の手順に従います。

1. 切断するターゲットのポート名をクリックします。**[Port Action]** (ポート アクション) メニューが表示されます。
2. **[Disconnect]** (切断) を選択します。

ステップ 6: ティアー接続を設定する (任意)

オプションのティアー接続機能を利用することにより、ティアー接続 KX II をベース KX II に接続できます。これにより、ベース **ProductName** からサーバおよび PX PDU にアクセスできます。ローカル アクセスとリモート アクセスのどちらも可能です。この機能の詳細については、**KX II ヘルプの [Device Management] (デバイス管理)** セクションを参照してください。

ベース KX II デバイスのターゲット サーバ ポートとティアー接続 KX II デバイスのローカル アクセス ポート (ビデオ/キーボード/マウス ポート) を、**D2CIM-DVUSB** で接続します。

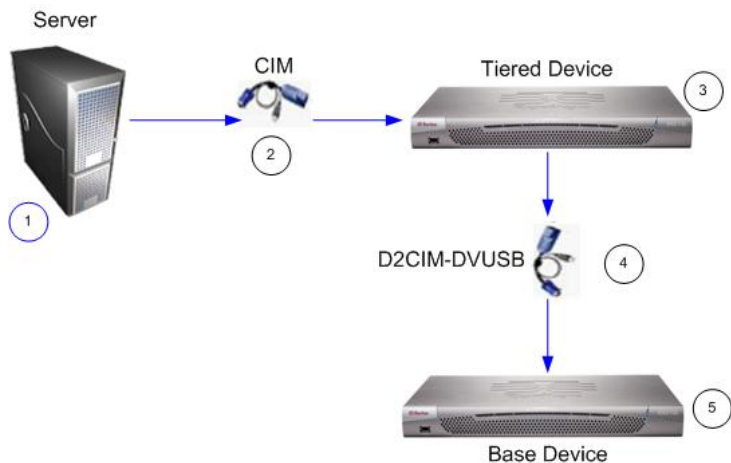
ティアー接続デバイスが **KX2-832** または **KX2-864** である場合は、ベース デバイスのターゲット サーバ ポートと **KX2-832/KX2-864** の拡張ローカル ポートを直接接続します。

▶ ティアー接続を有効にするには

1. ティアー接続構成内のベース デバイスで、**[Device Settings]** (デバイス設定) の **[Device Services]** (デバイス サービス) を選択します。**[Device Services Settings]** (デバイス サービス設定) ページが表示されます。
2. **[Enable Tiering as Base]** (ベースとしてのティアー接続を有効にする) を選択します。
3. **[Base Secret]** (ベース秘密ワード) フィールドに、ベース デバイスとティアー接続デバイス間で共有される秘密ワードを入力します。この秘密ワードは、ティアー接続デバイスでベース デバイスを認証する際に必要となります。同じ秘密ワードをティアー接続デバイスに対して入力します。
4. **[OK]** (OK) をクリックします。
5. ティアー接続デバイスを有効にします。ティアー接続デバイスで、**[Device Settings]** (デバイス設定) の **[Local Port Settings]** (ローカル ポート設定) を選択します。
6. このページの **[Enable Local Ports]** (ローカル ポートを有効にする) セクションで、**[Enable Local Port**

Device Tiering] (ローカル ポート
デバイスのティア接続を有効にする) を選択します。

7. [Tier Secret] (ティア接続秘密ワード)
フィールドに、ベース デバイスの [Device Settings]
(デバイス設定)
ページで入力したのと同じ秘密ワードを入力します。
8. [OK] (OK) をクリックします。



図の説明

1	ターゲット サーバ
2	ターゲット サーバとティア接続 KX II デバイスを接続する CIM
3	ティア接続 KX II デバイス
4	ティア接続 KX II デバイスとベース KX II デバイスを接続する D2CIM-DVUSB CIM
5	ベース KX II デバイス

その他の情報

KX II および Raritan

製品ラインナップ全体の詳細については、Raritan の Web
サイト (www.raritan.com)

を参照してください。技術的な問題については、Raritan
のテクニカル

サポート窓口にお問い合わせください。世界各地のテクニカ

ル サポート窓口については、Raritan の Web

サイトの「Support」セクションにある「Contact

Support」ページを参照してください。

Raritan の製品では、GPL および LGPL の下でライセンスされているコードを使用しています。お客様は、ソース
コードのコピーを要求できます。詳細については、Raritan の Web サイトにある「Open Source Software
Statement」(<http://www.raritan.com/about/legal-statements/open-source-software-statement/>)
を参照してください。